

ずっと書いています。今も書き続けています。学級担任時代には、毎日、学級通信を出していました。校長になりました。最初は小学校でした。次が高等学校でした。校長として学校だよりは出していました。それとは別に自分の文章を書きたくなりました。コップに水がたまり、溢れてしまったかのように書き出しました。それが、「校長室だより～燦燦～」です。その後は、中学校の校長となりました。校長室だよりは、そのまま継続しました。毎日書き続けた結果、5年間で1000号になりました。その中から100を選び抜き、『人生は、燦燦と 校長室だより100選』として出版しました。

退職後もますます文章が書きたくなりました。幼稚園の園長になったため「園長通信～こころ～」を出すことにしました。現在も書き続けています。その原稿は『人生を彩る6つのまなざし』というタイトルで世に出ることになりました。

なぜ、退職後も毎日文章を書いているのでしょうか。40年近い教職経験の中から伝えたいことがあります。校長となり、リーダーシップ、人生論、生き方、人間力などについて考えるようになりました。いつも、書きながら考えています。書くことは考えることです。考えることは書くことです。読者の皆さんに考えてほしいこと、伝えたいことがあります。その原動力になっているのは、うまくいかなかったこと、失敗、挫折、そして後悔です。自分の経験や考えたことが、人の人生や生き方に少しでも役に立てれば、少しでも考えるきっかけになればという思いがあります。小学校、中学校、高等学校の校長、そして幼稚園の園長を経験した者として伝えるべきことがあります。それは責務なのかもしれません。

学校や研究団体などに呼んでいただき、講話や指導助言をすることがあります。先生方の授業づくりの相談にも応じています。小学生、中学生、高校生と国語の勉強をしています。部活動指導員として、中学校の部活動にも行っています。これらはすべて、自分の文章、すなわち教育エッセイに生かされています。教員時代に3年間、イタリアのローマ日本人学校に勤務した経験も、今頃になって文章の中で輝きを放っています。

書くことに関しては、20年に及ぶ国語教師としての実践を『表現者を育てる授業ー中学校国語実践記録ー』として発刊できたことも大きかったと思います。退職したタイミングで、地元新聞の「随想」コーナーに、執筆陣の一人として月に一度のペースでエッセイを掲載するようになりました。どうやら、現在の自分は、書くことを中心に人生が動いているようです。そう望んだわけではありません。毎日書いているうちに、何かに導かれるようにそうなったように思います。何でもそうですが、続けていれば何かが動き出すのかもしれません。私の場合は、それが書くことでした。これからも教育エッセイストとして書き続けることにします。

これは、本日発売となる「教職研修10月号」教育開発研究所にある「校長・教頭のセカンドキャリア」の原稿である。タイトルは「書き続けること」とした。この教育雑誌の読者は、かなり限定されるため、この紙面にも載せることにした。ご一読いただければ幸いである。